

## 2.5

### チーム学校を目指したライン機能強化のための取組

#### 1. 目的

チーム学校の構築を目指して、主幹教諭の調整・指示によって、ライン機能とスタッフ機能を融合させ、ライン機能のデメリットを縮減し、組織体としての強化を目指す。

#### 2. ライン機能とスタッフ機能

##### (1) ライン機能

ライン機能を活かす組織は直系組織とも呼ばれ、すべての職位が最上位者層から最下位層まで、単一の命令系統によって直線的に結ばれており、各職位は常に上位者から命令を受ける組織形態。学校でのライン機能とは、校長→教頭→主幹教諭→教諭のように、直線的な命令系統の機能のことをさす。

##### 【メリット】

- 命令系統が単純であるので、指揮・命令に混乱が生じない。
- 権限と責任がだれに帰属しているかを明確に規定できる。
- 組織の規律や秩序を維持・管理しやすい。

##### 【デメリット】

- 下位者から上位者へのコミュニケーションや、水平的な横のコミュニケーションが取りにくい。
- 1人の上位者に権限と権力が集中しやすくなる。
- 下位者への権限の委譲が行われにくいために、上位者の職務が増大して複雑になり、上位者に過度の負担がかかる。(専門化による効率性を犠牲にしている。)
- 組織の規模が拡大すると多層化し、情報伝達に遅れや歪みが生じ、意思決定に時間がかかる。

##### (2) ライン組織のデメリットを補うスタッフ機能

ライン型組織のデメリットを補うために、実務を担当するラインに対し補佐的な役目を担うのがスタッフ機能。企業では、ラインは商品を直接製作・販売・営業するのに対し、スタッフはその商品の企画や、購買層の調査、それによって得られた情報アドバイス、計数管理等を行ったり、製品制作の助言をしたりする。通常、スタッフ部門はライン部門から独立しており、ライン部門との関係は対等である。

学校でいうスタッフ機能とは、企画・立案を担当する各分掌会をさすが、企業と違うのは、同じ人物がライン部門とスタッフ部門を兼務することにある。よって、場面(立場)によって求められる機能を個々の教職員が使い分ける必要がある。

### 3. 具体的取組

- (1) 組織的に機能する学校づくりに向けたライン機能強化のため、管理職・主幹教諭と学年主任との調整会（学年主任会）を定期開催し、学校経営計画との齟齬や学年間の取組み等に温度差が生じないようにし、学年機能を強化する。（学年団こそがライン機能そのものであり、実働単位であるという考え方）
- (2) 学校の課題解決に向けたスタッフ機能（企画・立案）強化のため、主幹教諭が各校務分掌を整理・調整し、学校が組織的に機能するために、主幹教諭と主任職（研究主任・人権教育主任・生徒指導主事・防災担当等）による進捗会議を、各部会とは別に各々で実施する。（隔週）